

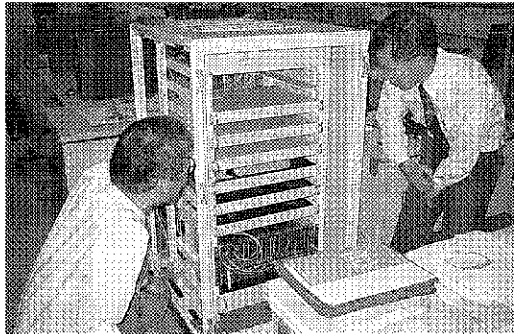
光信号読み取る ルーター開発

富山県立大教授がVB設立へ

高速で大量送受信

富山県立大学工学部電子情報工学科の安井直彦教授と松田弘成助教授は、大量の情報を高速で送受信できるインターネット用の光ルーター（通信経路制御装置）を開発した。動画などをリアルタイムでやり取りでき、双方向ゲームやテレビ会議に活用できる。安井教授は今年度中に県立大初の大学発ベンチャー企業（VB）を立ち上げる考えだ。

ネット通信では大量の情報を一度には送れない。データは「パケット」と呼ぶ単位に小分けし、それぞれにあて先を示す「ヘッダー」を付けて送信する必要がある。パケットは回線ではかたまり、データの欠損情報や一度には送れない光信号で送られるが、ルーターが生じたりする。この問題を解決するため、安井教授らは光信号を読み取るための電気信号に変換しなければならぬ。伝達速度が落ち、動画などの送信に時間が掛



安井教授らが開発した光ルーター。大量の情報を高速で送受信できる

た。内部に合分波器などを組み込み、送信先を示す光の波長を読み取る。大量の情報をリアルタイムでやり取りできる。動画や音声を伴う双方向ゲームを複数の端末で楽しめる。多地点を結ぶテレビ会議も可能。自動車などの三次元設計も、複数の端末で手分けしてNTTグループのNTTアドバンステクノロジ（東京・新宿）とマネジメント契約を結んでおり、今年度中にVBを設ける考え。富山県内では二〇〇二年度から三年掛り、富山大学がVB二社を生み出しているが、県立大からは初めてになる。同教授は企業化に向けた